

平城宮跡資料館 新規常設展示 「考古科学コーナー」の開設

平城宮跡資料館に、新しく「考古科学コーナー」がオープンしました。このコーナーでは、奈良文化財研究所埋蔵文化財センターでおこなっている文化財の科学的な研究、最新の技術について紹介しています。会場は、「保存科学」「環境考古学」「年輪年代学」「測量と探査」の四つの分野に分かれており、今までの歴史展示とはひと味違う、科学的な内容になっています。

「理系の分野は何だか難しくて…」と思われるかもしれません、そこは大丈夫！楽しみながら理解していただけるよう、さまざまな体験コーナーを設けました。「保存科学」では、保存処理前と処理後の木材をさわって比べたり、実際の調査に使用していた赤外線サーモグラフを使ってモノの中身を推測できます。「環境考古学」のコーナーでは、フルイをふるったり、顕微鏡をのぞいて、出てきたモノが何であるのか調べることができます。「年輪年代学」では年輪でこぼこをさわって木の構造を理解し、「測量と探査」では、土器の3D画像をくるくるまわして観察できます。

7月30日からオープンし、8月の間は夏休みの家族連れなど、沢山の方々にお越しいただきました。アンケートを拝見しますと、体験コーナーをはじめ皆様に楽しんでいただいているようです。まだご覧になられていない方は、是非資料館に足をお運びください。
(企画調整部 渡邊 淳子)



展示室のようす

「奈良応援せんと委員会」を設立

今年の3月11日に発生した東日本大震災により、被災地においては、地域の人々の誇りであり、アイデンティティーの基盤でもあり、また、国民共有の貴重な財産でもある文化財の多くが被害を受けました。このため、現在、奈良文化財研究所も参加している被災文化財等救援委員会等が中心となり、官民あげての文化財レスキュー事業(被災文化財の保全、救出、応急措置等をおこなうもの)がおこなわれています。

しかしながら、文化財を守るために活動には多大な経費が必要となるため、4月には、文化庁長官により、これらの事業に対する募金等の支援・協力が呼びかけられました。

このような状況の中、文化財の宝庫であり、文化財の保護に理解と関心の深い「奈良」だからこそ何かできることはないだろうか、また、昨年の平城遷都1300年祭をはじめとして、これまでに被災地域の皆様にはもちろんのこと、全国の文化財や歴史を愛する皆様からいただいた「奈良」へのご支援やご厚情に対して恩返しできることはないだろうかと考え、奈良県内の文化財、教育等の関係機関・団体、企業等が連携し「奈良応援せんと委員会」を設立しました。

委員会では、各所での募金活動をはじめ、チャリティーコンサートの開催等、それぞれが有する力を「奈良の力」として結集することで、文化財レスキュー事業等への支援をおこなうこととしています。

8月31日現在、約1,000万円の支援金が集まっており、今後、このような活動が全国に展開されるためのさきがけとなることを期待しています。

(研究支援推進部 田中 康成)



チャリティコンサート「音燈華」での募金活動のようす